

編輯後記

■難攻不落と豪語し、金城湯池と敵の特んだシンガポールの要地もあへなく陥ちた。皇軍はたゞ一路邁進、日々にすばらしき戦果を挙げつゝある。我等國內にあつて藝能にいそしむものも、愈々心を盡し力を致して報國の實を擧げなければならぬ。

■さる日衆議院で某氏が首相に向ひ「首相は兒童にゴム鞠を配給するとか、砂糖を増配したいと云はれるが、そんな小さな思ひやりをして大きな處を失はないで欲しい」と反駁したのに對し「政治は戦争の緊迫した中にも一つのゆとりを持つべきで、國民への小さな思ひやりも必要ではないか、政治といふものはやはり一つの温み、或はゆとりが欲しい。兒ども達には飴玉の一つもやりたい、砂糖や地下足袋も國民に配給したい。理窟一點ばりで冷たい氣持でゆくのが政治ではないと思ふ」と述べられた首相の答は、全く近來の痛快事である。砲火喧囂たる中にもなほ首相の所謂ゆとりが欲しいゆとりは文化を生み、藝能を助長する。か

くて生活の潤ひ、心の安定を得ることが出来る。

■國民演劇の育成、樹立の爲に情報局が先づ脚本募集に乘出したが、その結果「耕す人」の佳品一篇を勝ち得た。これに依つて國民演劇の一つの性格が出来たと言はれてゐる。兎も角も結構な事である。

■演劇の娯樂的な面と文化的な？調和がしつくり行つてないこと、また開演時間や役者本位の出し物や劇場内の食事等改良は正すべきものが多いといふ説がある。これは今に始まつた話ではないが、實行さるべき時は正に今でなければならぬ。

■演劇事業の健全なる發達を助成し、日本演劇の確立を圖つて、國民文化の進展に寄與さるべき演劇法案を作成、議會に提出の筈が、時局柄とあつて次會まで保留された。

■京都音楽文化協會が本格的活動の爲に事務所を河原町六角の昭和ビル内に新設した。

編輯部 大林 秀雄
森 重孝
森 雄

淨瑠璃雜誌 第四百七號

(昭和十七年二月號)
毎月一回三十日發行

●本誌 一部 金五十錢
●半ヶ年 金三十圓
●十二冊 金五圓

○御注文は一切前金の事
○雜誌發送を以て領收證に代ゆ
○外國送りは一冊に付郵税十錢を要す
○振替は浪花名物淨瑠璃雜誌社。
○座内阪二三九二八番

廣告料

普通 一行 金三十錢
一等 一行 金十二圓
二等 一行 金十二圓
特等 一行 金三十圓
○特等は一頁以下の需に應ぜず六回以上の特約には割引す
○製版を要する時は其費を申受く
○廣告料は總て前金の事
○一行九ポイント活字

發行所 樋口 虎之助

印刷所 坂口 秀吉

印刷所 高尾 印刷所

發行所 淨瑠璃雜誌社